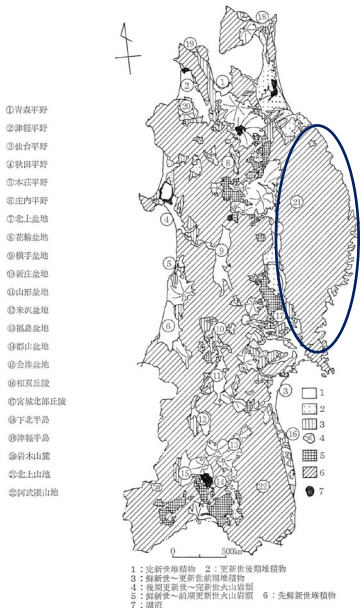
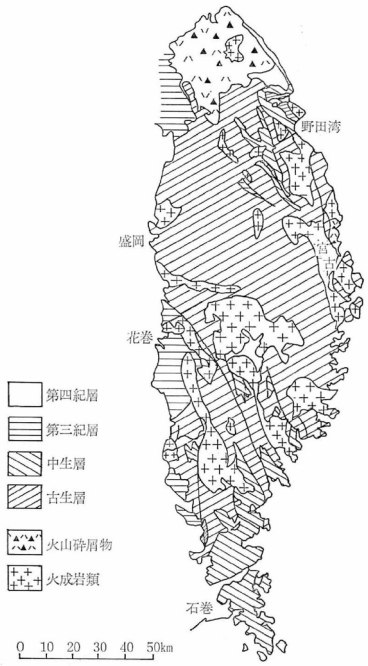
21.北上山地



地形・地質

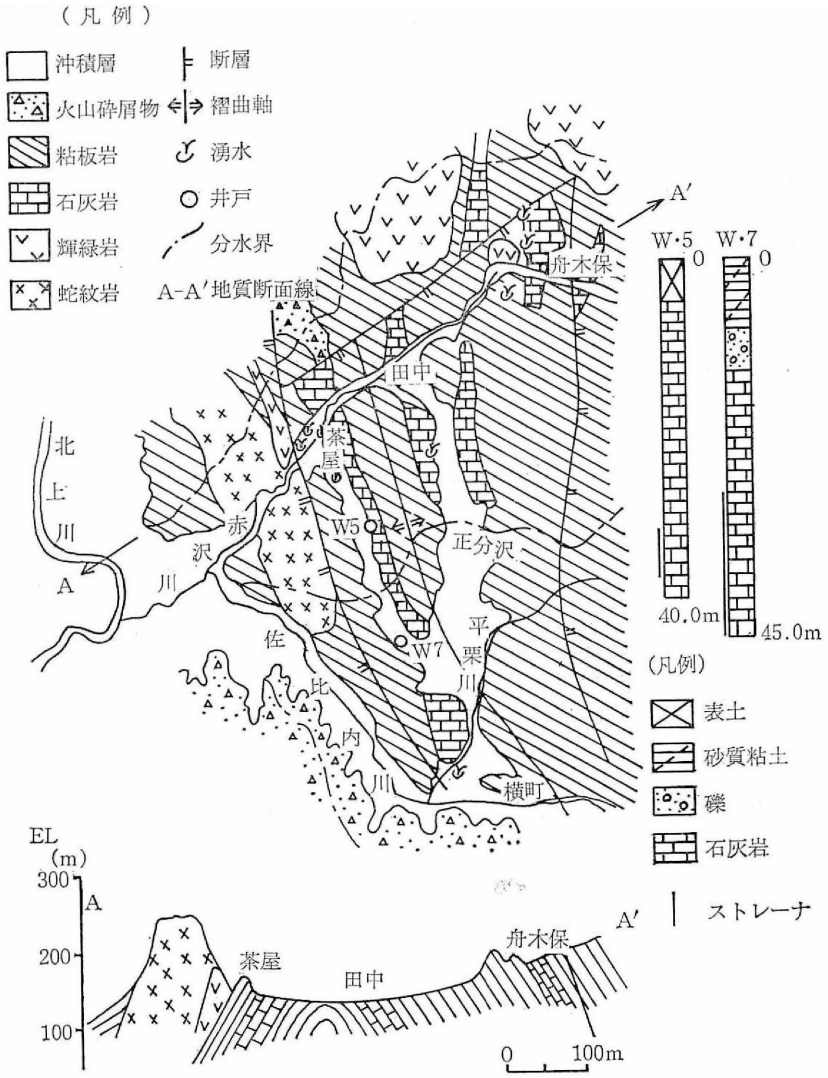
北上山地は，南北が青森県南部の階上山付近から宮城県牡鹿半島までの約250km，東西が最長で約80km，南北に長い紡錘形をしています。地質は，中古生層とそれを貫く火成岩類を主ですが，北部の丘陵地や北上川沿いの丘陵地の一部に第三紀層が，また谷部や山腹などに第四紀の河床堆積物や崖錐が分布しています。



北上山地の地質図

地下水

北上山地は水文地質的な面からの調査や研究はあまり行われていません。地下水は第四紀層や第三紀層の礫層にある程度の層状水を期待できますが，中古生層や火成岩類では割れ目の水(裂か水)や空洞水に期待せざるをえません。ですが石灰岩地域などでは、竜泉洞からの湧水は岩泉町の生活用水源，紫波町の赤沢川流域では生活用水のほかに農業用水・養魚用などにも利用しています。



紫波町茶屋付近の水文地質図・断面図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）